

## 《 Man on the edge 》

我々、アセアン・フィナンシャル・ホールディングスは「Man on the edge」というタイトルで、日本経済を下支えする人材の、海外からの調達戦略に関する情報の発信を行ってまいります。

我々は「Man on the edge」を「ぎりぎりの状況下で頑張る人」という意味で考えております。我々が向き合う人たちは、住み慣れた土地、家族、友人から離れたぎりぎりの状況のもとで、それぞれの目的のために歯を食いしばって頑張ろうとしている人々だということを決して忘れてはならないという想いで情報を発信してまいります。

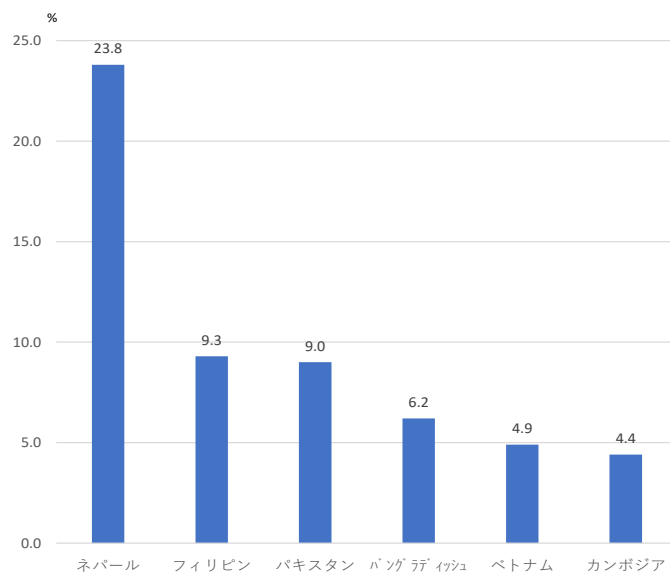
ぎりぎりの状況下で頑張っているのは、極端な円安による輸入物価の上昇で苦しむ住宅、食品、小売などの国内産業も同じです。超高齢化社会が進み、人口の減少によって需要が縮小するため、コストの増加を販売価格へ転嫁することは、政府や日銀が口で言うほど簡単なことではありません。

我々は2つの「Man on the edge」の間に立って、それぞれの目的の最大限の達成をお手伝いしてまいります。国内産業の成長持続、技能実習生と送り出し国の富の最大化、できればアジアと日本の間の新しいエコシステム構築までを、「技能実習制度」の本旨に沿って進めていきたいと考えております。

## 《 国外からの送金の重要度 》

日本でも高度成長期に東京や大阪などの大都市に向けて農村部から多くの人々が移動しました。その収入が農村部の人々の追加的な収入となり、それぞれの地域の発展を支えました。今、アジアの国々でも、海外へ労働力を輸出し、その送金が収入の大きなウェートを占める国が多くあります。図表 1 にみられるようにネパールはGDPの23.8%に相当する海外送金を受け取っています。単純な比較は適当ではないですが、日本のGDPの産業別構成比における製造業全体のウェートが3割弱です

図表1 海外送金のGDPに占める割合(2021年)



出所 世界銀行の統計をもとに当社作成

ので、海外労働による収入はそれに匹敵する重要な「稼ぎ頭」ということになります。経済成長が順調に進むベトナムでもその比率は4.9%と高く、依然として重要な産業に匹敵する外貨獲得手段であることに違いありません。

